会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（幸町自治会）
2　日時	平成30年4月27日（金）15：00～16：20
3　場所	高砂コミュニティーセンター
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、森岡副主査、永井主任、水本主事、下舞主事 （環境事業センター）加藤所長補佐、小川所長補佐、井上技能労務統括主査 （幸町自治会）参加人数：25人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●資料Ｐ２のご家庭ごみの組成について、どのように算出したのか。 →平成28年度に調査を実施。環境事業センターに運ばれた、家庭ごみの約500kgをサンプルとし、それらを厨芥類・資源化可能な紙などに分類している。 なお、この調査を、3地区に分け、各地区3回のサンプリングを行うので、延べ9回の調査をしている。 ●ごみ処理経費について毎年30億円を超えるとのことだが、その内訳を示すべきではないか。燃料費や人件費などが算出されているという理解でよろしいか。 また、資源物の売却料金は市の歳入とならないのか。ごみ有料化をすると約3億の歳入となるという、理解でよいか。歳出と歳入の詳細を教えていただきたい。 → ・資源物の売却料金については、28年度で約1億2千万円。ただし、寒川リサイクルセンターを寒川町と共同運営しているその経費が排出量割合に応じて算出され、約80%が市の負担になり、資源物の売却料はすべてそこに充当する形になる。むしろ足りない分を市の一般財源から賄っているところである。 ・また、ごみ有料化を実施する場合の3億円の歳入については、あくまでも推定値になりますが、この財源をごみ処理経費や施設の整備、資源化経費等に活用していきたいと考えている。 ・30億円の内訳、ごみ有料化に伴いごみ処理経費がいくら減るのかなどの試算を試みます。 以上